

カルメル 霊性センターニュース



十字架の道行きとヤヌア・チェリ(宇治カルメル会)

2018年9月

345号

目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	27
東京	28
名古屋	30
北陸	31
京都	32
諸所の企画案内	35
郵送お申込みのご案内	48
編集後記	49



心の泉



宇治カルメル会修道院 玄関



第三卷

第十三章 イエス・キリストの模範にならう、謙虚なしもべの従順

1 主

《子よ、従順をのがれようとする者は、神の恵みを見失う。自分だけの特別な善を求める者は、あまねく与えられる恵みさえも失う。快く目上に服従しない者は、肉体がまだまったく霊に従いきっておらず、しばしば反逆している証拠である。だから、自分の肉体を支配しようと思うなら、目上にすみやかに服従することを学びなさい。心のなかが荒らされていなければ、外の敵に容易に打ち勝つことができる。体と精神とを調和させていないなら、あなたにとって、自分自身よりも有害な靈魂の敵はない。もしあなたが、肉体と血とに勝とうと思うなら、絶対に自分自身を軽蔑する必要がある。あなたが、他人の意志に従うことをためらっているのは、まだあなたのなかに強い自愛心があるからである。》

2 キリストの従順

いと高き全能なるもの、無から万物を創造した私は、あなたを愛するゆえにへりくだり、人間に服従した。塵と無とにすぎないあなたが、神のために人間に服従することに何の不思議があるだろうか。私は謙遜によってあなたの傲慢を滅ぼそうとして、誰よりも小さい者、最後の者となった。塵である者よ、服従することを学びなさい。芥である者よ、自分を卑しめ、皆の足もとに屈することを学びなさい。さまざまな欲望を砕き、誰にでも、すべてにおいて完全に服従することをならいなさい。

3 罪深い者

自分自身に対して猛烈に闘いなさい。そして自分のなかに傲慢がはびこるのをゆるすな。むしろ、すべての人に踏みつけられる路上の土くれのように、小さく従順な者となりなさい。空しい人間よ、なぜ嘆くのか。汚らしい罪人よ、いくたびも神をあなどり、いくたびも持続に墮ちるべき者であったのに、どうして、あなたを非難する者に抵抗しようとするのか？しかし、あなたの靈魂は私の喜びとなるものである。だからこそ私は、いつかあなたが私の愛を知り、感謝をもって、つねに私の恩恵に報い、まことの従順と謙遜のうちに生き、忍耐しつつ自分自身への軽蔑を学ぶように、慈悲によってあなたをしばしば捨て置いたのである。》

テレーズのまなざし

神さまは わたしたちに多くの愛を与えたいのにそう
できない。誰もが自分の功德しか見せないからです。
わたしたちは 本当にとるに足りないものなのに…
こう言いながら、テレーズは神のみ前で訴えます…



その愛を わたしに与えてください。
わたしは 愛のいけにえになりましょう。
他の人々が受けない愛を、すべて受けます！

彼らは あなたの望まれるままに
愛されようとはしないのですから…

テレーズ

こうしてテレーズは自分に注がれる神の慈しみを
必要とする人々に惜しげなくまき散らします。



「わたしは地上で善をおこないながら、天国を過ごしましょう。」

9月8日マリア様のお誕生日の祝日は、テレーズ誓願宣立記念日、
30日テレーズの命日。



わたしを迎えに来るのは
「死」ではなく 神さまです

わたしは死ぬのではありません、
命に入るので

～死を前にしてのテレーズの言葉～

「命日」が真の「いのちの日」となるよう
に、わたしたちもテレーズのまなざしのも
とに、日々の出来事を神の慈しみのうちに生きていきたいものです。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートル・ダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（12）

くのり 九里 彰

良寛や道元の言葉を紹介してきたが、その中に見られる深い宗教的感覚は、どの民族にもどの文化にも、長い間培われ、脈々と伝えられてきたものではないだろうか。

アメリカ・インディアンの酋長シアトルの言葉は、そのことを雄弁に物語っている。

横道にそれるが、アメリカ映画やテレビの西部劇では、インディアンは白人の敵、悪玉として描かれ、インディアンがばたばたと撃ち殺されて行くのを、幼い私は喝采して見ていたわけであるが、まったくひどい話である。ユダヤ民族絶滅をはかったアウシュヴィッツとは違うが、自分たちの土地を奪おうとする白人との戦いで、どれだけのインディアンが命を落としていったことであろう。彼らも、黒人奴隷と同様、人種が違うだけで、白人と同等の人間として扱われてこなかったことに変わりはない。

酋長シアトルの言葉の抜粋である。

ワシントンの大酋長（筆者注：大統領のこと）が、我々の土地を買いだいたいといっただらされた。…しかし、お申し出はよく考えてみよう。なぜなら、我々にはわかっているのだ、もし売らないといえ、白い人は銃を持ってやってきて、我々の土地を奪うだろう、と。いったいあなた方は、大空や大地の暖かさをどのように売ったり買ったりするおつもりか。そのような考え方は、我々にはふしぎでならない。大気の爽やかさも、水の輝きも、人の所有物ではないのに、あなた方はどうしてそれを買ったりできるのか。

私の民にとっては、この大地はどこもかしこも神聖なのである。光り輝く松葉の一本一本、砂州のひとつひとつ、暗い森の霧の一粒一粒、ブーンとうなる透きとおった虫の一匹一匹が、私の民の記憶と経験の中では、聖なるものなのだ。木の中を流れる樹液は、赤い人の数知れぬ記憶を運んでいる。……………

かぐわしい花々は、我々の姉妹、鹿、馬、大鷲、彼らは我々の兄弟だ。峻しい岩山、牧場の朝露、ポニーの体の温もり、そして人——、どれも皆、一つの家族に属している。（女子パウロ会『生命の織物 先住民族の知恵』）

「かぐわしい花々は、我々の姉妹、鹿、馬、大鷲、彼らは我々の兄弟…」、アジジの聖フランススコの「太陽の歌」と同じ調べが奏でられている。

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（127）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

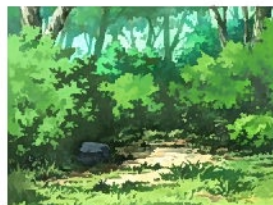
「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」（4）

詩人の魅力から解説者の散文へ移るならば、環境に関する説明、愛する方——この方は靈魂を高め、威厳に満ちたものとするために到来を約束された方に他なりません——を探し求め、恋い慕う魂と環境との関係に関する説明で、私たちは一杯になることでしょう。

十字架のヨハネは、実際、この対話、すなわち『靈の賛歌』の第4の歌の第1節を解説する時、最も純粹でエコロジカルな味わいをもった断片を残しています。

「おお 森よ、あつい茂みよ”。森と呼ぶのは、諸要素のことで、それは、土、水、空気、火である。なぜなら、それはきわめて心地よい森のように、種々さまざまの被造物で満ちているからである。そしておのおのの要素の中にある被造物の数や種類がおびただしいため、これらの被造物をさして、あつい茂みと呼んでいるのである。土には、数え切れぬほどの種々雑多な動物や植物がある。水の中には無数の異なった魚類がいる。空中には、おびただしい鳥類がいる。火はあらゆる被造物を活気づけ、また存続させるために協力する。それで生物のおのおのは自分の本領を発揮できる場所に生きている。それは言わば発生し成長するために適した森、または領域に植えられ、置かれているのである。実際、神は天地創造の際、このようにお命じになった（創1）。すなわち、地には植物や動物を、海と水とには魚を生じるように、空には鳥の住まいとなるように命じられたのである」（『靈の賛歌』4,2）。

聖書の言葉——それによりこのページは閉じられ、終わっているのですが——に加えて、そこには明らかにエコロジカルな表現が豊かにあります。環境や生命に言及した言葉や現実。流体：水と空気。「その胎の中で、命や光と熱のエネルギーが成長する」。それはまた火の要素へととも良く変化します。多種多様な無数の魚や鳥や植物について、またそれらを活気づけ、存続させることについて語ります。



エディット・シュタインにおける女性の霊性 (1)

ハビエル・サンチョ神父 (OCD)

エディット・シュタインが青年時代に哲学研究に立ち向かって以来、次の懸念だけが彼女の探求の原動力でした。すなわち、人類の存在と現存の意味です。彼女のすべての著作がきわめて人間論的な基礎を持っている理由は、この動機によるのでしょう。またここから、女性や教育といったテーマへ彼女が献身したことは、人生や学問の道の論理的帰結だということになります。大学の学生でフェミニズムの活動家でもあった時代を思い起こしながら、こう書いています。

社会的責任感から、私は女性の投票権のために決然と取り組みました。当時、このこと（女性の投票権）は、女性の市民運動の中でさえ、まったく自明の事柄であったわけではありませんでした。友達たちと共に入った女性の投票権のためのプロイセン協会は、大半は社会主義者によって構成されており、彼らは女性のために政治的諸権利の完全な平等を要求していました。（『黄色い星』149）

エディット・シュタインが公にこれらの問題について話すよう求められた時、彼女はまったくの初心者ではなかったのです。彼女の論文や講演は、重大な人間論的な懸念と完全に一致している考えなのです。その懸念は、人類における女性の地位を緊急に明らかにする必要性として表明されています。

彼女の分析は、単純に現実状況の検証の結果でも女性に同等の地位を獲得するための戦いの結果でもありません。彼女は、女性の問題を、他のより重大で深遠な手段によって、決定的な解決を見出そうという目的をもって導いています。それゆえ、通常、特殊な事柄には立ち止まりません。彼女の主張を明らかにする事例としてのみ、それらに関わります。彼女は本質的なことを探究しているのです。そこには現象学的方法論の特徴が垣間見られます。

エディット・シュタインは、女性について多くのことを考え、話しました。最初は、女性を政治的社会的な生活から排除するあらゆる規範を拒否する態度によって駆り立てられていましたが、回心以降は、彼女のまなざしはより人間論的・神学的になりました。進行中の「女性の革命」は、ただ女

性であることの真の存在に本当に基づく時にのみ、良い実りをもたらすであろうということを意識するようになります。したがって、彼女の人間論は、「相違を示す」という特徴を持っています。つまり、男性と女性の存在の特徴的なことを知り、明示する必要があるということです。決定的な答えを、人間の学問（教育学、心理学、哲学、生物学等々）だけで出すことはできません。それゆえ、その究極の土台を神の内に、つまり神の創造の意志の内に、またその普遍的な救いの計画の中に探求してゆかなければなりません。彼女の女性に関する見解は、神学的なものであり、そこからのみよく理解され得るものなのです。

神学的な本質的根源をもったシュタインの相違の人間論は、「個性」という要因の中に最重要点を見出しています。この個性は、直接的に神の「像」であることに対応しています。像は、各々の人間の中に特有な人格的価値を表し、多様性の中に、神の存在を表現する常に新しい様式を見出していく神の無限な愛のしるしが示されています。したがって、人間の個性的なものは、偶有的な（非本質的な）側面ではなく、まったくの正反対であるということになります。神によって直接的に創造された彼の本質に対応するのは、そして神の御旨を成就することは、本質的に神の「像であること」に、神が各人（ペルソナ）に与えた特殊な賜物を人間共同体のために活性化することにあるのです。この講話では、忘れてはならない点です。なぜならそれはまた、個人の存在や、人間存在（種）としての像や、男か女（属）としての像に対応するからです。これら三つの存在論的「層」が、個人の本質を構成しているのです。

この点にさらに付け加えなければならないことは、次のことです。すなわち、エディット・シュタインが行なっている神学的人間論的考察は、ほとんど、彼女が感じていた「女性の属的個性」を回復しなければならないという緊急性——このために彼女は生涯努力したのですが——によって、動機づけられていたということです。彼女は、女性性の特徴的諸原理を確立する必要性と切実性を感じていました。この諸原理に基づいて、女性は、「異なった」存在であることを自覚し、自分自身の中にその諸価値——それらは単に女性を男性から区別するだけでなく、自己理解とその生涯の全体的で完全な発展のための真の道となるのです——を発展させることができるようになるためです。このようにして、その霊的生活自体が、女性にとっていくつかの固有の意味合いを持つことになります。

（続く）

年間第22主日（B）

（マルコ7：1-8、14-15、21-23）

「外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、
人の中から出て来るものが、人を汚すのである。」

本日の福音でイエスは弟子たちに何が本ものであるかということと呼びかけています。「彼らが私に捧げる礼拝はむなしい。」真の礼拝は、魂が中にも外にも何もよいものを持っていないと認める謙虚さから始まります。しかし全ての善は神から来るのです。ファリサイ人たちは真の礼拝を奉げていません。彼らは神から頂く善より自分たちの才能と善に頼っています。イエスがファリサイ人と徴税人の喩え話の中で「ファリサイ人は自分自身のために祈っている」（ルカ18：11）と言われた通りです。私が心からの言葉で主に話しかけ、私の祈りが真に捧げられているかはどのようにして確かめられるでしょうか？

キリストが福音の中で話されているように「神の王国はあなたの中にあります」。神の王国に対する全ての戦いも私たちの中にあります。『カトリック教会のカテキズム405』に「原罪は原初の義と聖性の欠如です」「人間本性の本来の固有の能力は傷つき、無知と苦と死に支配されるままになり、罪への傾き（この傾きが『欲望』と呼ばれます）を持つようになりました」と述べられています。この欲望は私たちの内面から全ての無秩序を浮き上がらせます。主が言われるように、この無秩序は人間を汚すものです。私たちの聖性と清さは内面から始めなければなりません。私たちの考えや望みを福音の基準にそって整えることです。そして言葉においても行いにおいても具体的な善行に浮き上がらなければなりません。私の生活の中で一番ダメージとなる欲望は何でしょうか？

罪と死はアダムの不従順によりこの世に入りました。しかし、「一人の罪によって多くの人が死ぬことになったとすれば、なおさら神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです」（ロマ書5：15）。私たちの欲望によって死と罪が私たちを支配しようとするのは確かですが、私たちの心から罪を根こそぎにする方法を自由に持っているのも確かなことです。後ろを振り返らないで、私たちの内面をキリストが支配してくださる道を出発しなければなりません。私の生活の中で欲望を克服しようと真剣に努めているでしょうか？

(Sr. Paulina)

年間第23主日 (マルコ7:31-37)

イエスが天を仰ぎ、「エッフアタ」と言われると、その人はたちまち耳が開き、舌のもつれが解け、はっきり話すことができるようになりました。耳が聞こえず、話もできない。それはどれほど不自由なことでしょうか。私たちの場合、知らない外国語の世界に放り込まれた時に、似たような体験ができるかもしれません。そんな中で何とか話が通じた時、また、相手の言うことが分かった時、とても嬉しく感じるものです。もちろん、この人の喜びはそんな程度のもではなかったはずでしょう。口止めをされればされるほど、かえってますます言い広めてしまったのもやむを得ないと思います。第一朗読のイザヤ書ではこう預言されています。

「そのとき、見えない人の目が開き、聞こえない人の耳が開く。そのとき、歩けなかった人が鹿のように躍り上がる。口の利けなかった人が喜び歌う。荒れ野に水が湧き出で、荒れ地に川が流れる。」(35章5-6節)

「聖書と典礼」に「これらのことはメシアの到来のしるしと考えられるようになった。イエスによって実現することになる」と解説されています。この福音の出来事は、まさにこの預言の成就として起きたのです。つまり、イエスこそ待ち望まれていたメシアであるというしるしなのです。

しかし、ただのしるしで終わるものではありません。「エッフアタ」とは、「開け」という意味ですが、イエスは私たち一人ひとりにも「開け」と言ってくださいます。この人にとって必要だったのは、舌が回り、耳が聞こえるようになることでした。私たちにも、それぞれ開いてもらわなければならない部分があるはずです。とくに、霊的な能力が低い部分が多々あるはずです。「スピリチュアル・アルツハイマー」との言葉を教皇フランシスコが使ったことがあります。現代人は霊的(スピリチュアル)な面で非常に鈍感な人が多いというメッセージです。私たちが開いていただかなければならない部分は、霊的な舌、霊的な耳ではないでしょうか。私たちの舌は普段何を話しているのでしょうか。神を賛美し、良い言葉を口にしていないでしょうか。私たちの耳は何を聞いているのでしょうか。神の言葉を聞き、心を養っているのでしょうか。何を聞き、何を話すか、それは心の問題です。イエスは私たちの心が、神の言葉を聞き、神を賛美するものとなるように開いてくださる方です。神の言葉が聞けるようになる時、つまらない情報でいっぱいだった私たちの心は充実します。神を賛美し、良い言葉を口にするようになると、暗い顔は明るくなり、人々とのコミュニケーションも良好になります。それは「荒れ野に水が湧き出で、荒れ地に川が流れる」ような喜びの湧く瞬間です。

この「エッフアタ」の恵みをいただくためには、イエスに触れていただきたい、という思いで近づかなければなりません。また、自分がそのようなあわれな状態であることを謙虚に認めなければなりません。イエスは「わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない」と言っています(ヨハネ6章37節)。イエスは、そのようにして来る人に「エッフアタ」の恵みを与えたいと思っているはずで

(今泉健神父)

「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と言われた。

ペトロが答えた。「あなたはキリストです」。

あなたにとってキリストはどなたですか？ 「あなたは私を何者だと言っていますか」というキリストの問いに私たちは祈りで答えなければなりません。これは人生の中で通らなければならない唯一のテストであり、唯一の試験問題です。「あなたにとってキリストはどなたですか？」という観点からこの問いを考え答えなければなりません。この問いはキリストを明確にはしませんが、答える人を明確にします。

キリストにとってあなたは何者ですか？ もしイエスの直接の体験に関してはほとんど何も言うことがないならば、もし私の内的体験が世俗的で物質的な心で暗くされているならば、「私はキリストにとって何者ですか？」という次のキリストの問いに答えなければなりません。キリストにとって私は何者であるかということは、主として祈りの中できまります。「内的キリスト」はそれが啓示される人にだけわかります。啓示は単なる生身の人間の働きかけや、人間的な出来事だけでは起こりません。ペトロの内的生活は御父にとって豊かな土壌でした。ペトロの証言は運よくうまくいったのではなく、彼の信仰が力を引き寄せ、彼の魂に神が介入されたのです。「あなたにこのことを現わしたのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」(マタイ 16:17)。私の祈りの内的生活が私を定め、私の性格を形作り、特別の方法でより大きな感性の恵みを求めることができますように。

キリストはペトロをあてにすることができるのでしょうか？ある時には彼は御父の思いを現わし、また次の瞬間にはサタンの思いを現わしています。キリストへのペトロの体験はペトロの信仰を壊そうとするサタンの試みの標的となります。キリストの受難は弟子たちが信仰を失わないための誓約なのです。結局キリストの祈りが勝ります。ペトロは聖霊降臨によって生まれかわり、恐れなく教会の使命を引き受け、出発します。キリストの強い内的基盤は最終的に霊的生活の最後の抑止となります。私がキリストの上に築かれているから、キリストが私の上に築くことができるのでしょうか？もし私が戦いに留まるならば、もし私がしっかり留まり私の失敗の現実が進歩を妨げるならば、キリストの忠実さは私を支えてくださるのでしょうか？私が戦い続けるならばサタンは私の信仰を破ることはありません。このためには私は常に新しいゴールを持ち、それまでよりもっと新たに、よりよく、より寛大に始めなければなりません。

イエスは群衆を弟子たちと共に呼び集めて言われました。「わたしのあとに従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うがわたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。」

(Sr. Paulina)

年間第25主日 (マルコ9:30-37)

今日のみことばは、イエスが高い山に登られて、御姿が変わられたご変容の場面の後、汚れた霊に取りつかれた子を癒した後の話です。イエスと弟子たち一行は、ガリラヤを通過してカファルナウムに行きましたが、イエスはそれよりも前にご自分が排斥されて、3日の後に復活なさることをはっきりお話しになられていた訳ですが、弟子たちはそのことを理解していませんでした。

今日のみことばの中でも、弟子たちはこの言葉が分からなかったが、怖くて尋ねられなかったと語られています。ご自分が人々の手によって排斥され、殺され、死ぬことをわかりつつ、御父のみ旨として受け止め、救い主としての使命、贖いを全うされるため歩んでゆかれる神の子イエス。それとは対照的に弟子たちは、誰が一番偉いかと議論し合っていた訳です。

そんな弟子たちに対しイエスは、途中で何を議論していたのか、とお尋ねになられただけで叱責はなさいませんでした。弟子たちを諭すために、ご自分はお座りになられて1-2人を呼び寄せてお話しになりました。

途中、それは道の途中…。ガリラヤを通過してカファルナウムに至る道の途中であり、十字架への道の途中。その途中で、誰が一番偉いかと弟子たちは議論していたのです。

弟子たちの無理解と謙遜なイエスの姿、彼らに語りかける優しい姿が対照的です。ね。

イエスは語られます。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい」と。誰が一番か議論していた弟子たちに対し、仕える者、すなわち奉仕する者になりなさいと諭されました。続いて、子供の手を取って真ん中に立たせ、彼らの目の前で抱き上げ、わたしの名のためこの様な子供を受け入れる者は、わたしを受け入れる、それはイエスをお遣わしになった方、父なる神を受け入れることになるということを明かされたのです。

私たちが仕える者、奉仕する者、また受け入れる者となりましょう。弟子たちの前でお座りになり、弟子たちを呼び寄せ、自ら子供を抱き上げて諭されたイエスの姿を思い巡らしながら、イエスの言葉を心に受け止めましょう。

(Fr. 古川利雅)

年間第26主日

(マルコ9：38-43、45、47-48)

キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。

今日の福音はキリストのうちに一致することの意味深さに心を向けさせます。ヨハネが、キリストの名によって悪霊を追い出している者があると告げたとき、イエスはヨハネの妬ましい思いを清め、偏らない中庸ある心の大切さに気付かせてくださいました。限られた世界の仲間だけに通用する狭い見解を捨て、広い心を持って誰とでも共に協力し合って働くことをお望みになりました。わたしたちも普段よく経験することです。所属している教区、活動や祈りのグループ、共同体の違いを気にせず、キリストを信じる全ての人々と共に働いてほしいのです。名誉退職された教皇ベネディクト XVI はローマで聖霊降臨の日の司教様方の集いで仰いました：“教会全体は、教皇ヨハネパウロ II がいつも仰っていたように、唯一の偉大な運動、動きです。聖霊によって生かされ、神の恵みのうちに人類の歴史の間を流れ、潤し、又その生活を善、美、正義、平和のうちに実り豊かなものにしていく川なのです。”

多数の教皇方のメッセージは“善意あるすべての人々”に向けられています。善意ある人々とは真理を信じ、自分の好みに関わりなく、常に積極的な援助に心を開いている人々のことです。イエスは愛徳を普遍的な使徒的奉仕活動の基準となさいました。愛徳は善意ある人々の特徴です。こういうわけでキリストは仰せになったのです。“キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける”（マルコ9：41）。わたしたちも全ての善意ある人々に心を開きましょう。善意ある人々がわたしたちとの交わりの中で心温まる経験をするなら、日常的な自らの行いが、教会共同体とキリストご自身にとって最も大切な望ましいことであると知るようになるでしょう。いつでもどこでも、愛徳は人々をキリストとその愛に引き寄せます。

罪人の回心。誰でもみんな神の救いの計画に招かれています。たとえ罪人であっても回心してキリストの愛の計画に入ることを強く望んでおられます。罪の恐ろしさや地獄の存在を明らかにして警告されるのはこのためです。イエスの憐れみ、同情をしっかり受け留め、日々回心し日常生活の罪を一掃するよう努めましょう。“もし片方の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出しなさい。”誰に対しても、自分の勝手な思いで戒めることなく、温かな思いと真の関心を持って、親交を深めていきましょう。

(Sr. Paulina)

糸巻き棒からペンへ(34)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

聖女の神秘体験は、それを伝えるための手段を探し、また通常言葉では不十分であることを見出します。テレジアは、第三人称で自分のことを話しながら、こう言っています。「ああ、神よ、この状態にある靈魂は、どのようなものなのでしょう。彼は、主を讃えるために、すっかり舌になってしまいたいと望みます。彼は、無数の聖なる愚かなことを言います。私はある人を知っていますが、彼は、詩人でもないのに、自分の苦しみを上手に言い表しながら、感動的な詩を即座に作っていました。そこには彼の理智の働きは少しもありませんでした。しかし、これほどの甘美な痛みをもたらした栄光をより味わうために、彼は自分ごとを神に向かって嘆き訴えていました」(『自叙伝』16・4)。

具体的には、最初の詩に関して、彼女自身は、それを祈りの中で、1557年に、ドーニャ・ギヨマル・デ・ウヨアの家で、作ったと述べています。それは自然発生的に生まれたということです(手紙 167,36)。けれどもそれを書き写している時、全部思い出すことができなかつたようです。その時に彼女が書いたものは、現在まで保存されています。次のようなものです。

おお、すべての美を
超え出る美よ！
傷つけることなく 痛みを与え
痛みなしに 粉々にされる
造られたものへの愛を

おお、あまりにもへだたった 二つのものを
かくも一つにする 結び目よ！
なぜ 解かれるのか 私には分かりません
結ばれていれば 災難をも よいものと
思う力を与えられるのに

存在を持たない者を
終わりなき存在と結び
死ぬことなく 死に
愛さずともよいのに 愛し
私たちの虚無を 偉大なものとされる

(続く)

いのちの言葉 9月

心に植え付けられたみ言葉を受け入れなさい。
このみ言葉は、あなたがたの魂を救うことができます。

(ヤコブの手紙 1・21)

今月のみ言葉は、初期のエルサレム教会で指導的立場にあった使徒ヤコブによって書かれたものです。

その中で、ヤコブは、「信仰と行い」が一つになるようにしなさいと信徒たちを励ましています。

ヤコブは、み言葉を受け入れ、み言葉に導かれて生きるために不可欠な条件として、「偽りのない心」をもつことを強調しています。

神のみ言葉には、特有な力があり、それは一人ひとりの内に、また、共同体の中に良い実りをもたらすだけではありません。み言葉には、一人ひとりと神との間、そしてお互いの間に愛の関係を生み出していく力が備わっているからです。

ヤコブは、私たちの心の中にすでに、このみ言葉が「植え付けられている」と言っています。それは、神がその創(はじ)めから、ご自身に似せて「人間」をお造りになったと明言しておられることから分かる、と記しています。

ですから、すべての人の心にはすでに善いこと、正しいこと、自分を与えること、神との交わり、他の人との交わりを望む思いが、ちょうど「種」のように蒔かれていると言えるでしょう。

そして、私たちキリスト者にとってこの現実、洗礼の秘跡によってゆるぎない確固たるものとされるのです。

心に植え付けられたみ言葉を受け入れなさい。このみ言葉は、あなたがたの魂を救うことができます。

さて、神は、聖書を通して私たちに語りかけられます。キリスト者にとって、その頂点は福音書です。福音のみ言葉に耳を傾け、それを実践するとき、その実りを実際に目にしたり、体験したりするでしょう。

しかし、私たちの心には確かに、み言葉の種が植え付けられているのですが、同時に、そこには他の多くの声もあります。

自分が置かれている環境や状況からくる声、マスメディアによる様々な情報、尊敬する人の助言や意見、又、その時々を感じる心配や恐れ、欲求、他の人に認められたい願望、心の驕り、等々、様々な感情もそこにあります。

では、どうすれば私たちに語りかける神の声を聴くことが出来るのでしょうか。

一瞬立ち止まってみましょう。すべての声をいったん脇におきましょう。そして、静かに心に語りかける神の声に謙虚に、愛をもって耳を澄ましてみましょう。

安らぎとともに、少しずつ心に光が差しこむのを感じるでしょう。それは自分の殻から外に出るように私たちを促し、他の人と力を合わせて、より一つになった良い社会を築くよう私たちを招いてくれる声ではないでしょうか。

心に植え付けられたみ言葉を受け入れなさい。このみ言葉は、あなたがたの魂を救うことができます。

事実、神の言葉には、悪の暗闇から私たちを解放し、私たちの生活を個人的にも社会的にも変えていく大きな力があります。

でもそれを可能にするのは（たとえ弱く不完全で、常に向上しなければならないような私たちであっても）み言葉に対する私たちの誠実さと信頼があってのことです。

こうして、私たちの思いや考えは、より一層イエスに似たものとなり、神の愛への私たちの信仰と希望はさらに強められていくことでしょう。そして、私たちの目は助けを必要とする兄弟にいつも開かれ、彼らに手を差し伸べていくこともできるでしょう。

1992年、キアラ・ルービックは次のように言っています。

「イエスの中では、天の御父に対する愛と、ご自分の兄弟である人間に対する愛が、深く一致していたのが分かります。そして、彼の言葉にはこの上ない実行が伴っていました。

これこそ人々の心を魅了し、引き付けていたことです。私たちもイエスと同じ様にあるべきでしょう。

子供のように素直な心でイエスのみ言葉を受け入れ、み言葉の清さと光、徹底的な力強さをそのまま実行に移すことです。

そうすることによって私たちはイエスが求めておられるような弟子、師に劣らぬ弟子となり、世界中でもう一人のイエスとなって生きていくことができるでしょう。

私たちにとって、これ以上偉大で、素晴らしい冒険が他にあるでしょうか？」

*1

レティツィア・マグリ

*1 キアラ・ルービック、「師のように」チッタノーバ誌 36(1992/4), p.33.

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

マリアポリ in 埼玉

～ともに歩もう～ ひとりではなく、つながりのなかで

とき: 11月9日(金)15:00より 11月11日(日)16:00 終了

ばしょ: 国立女性教育会館 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

申込締め切り 9/30

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157chl.wix.com/focolare-jp

過酷というほかない今年の夏でした。

西日本を襲った豪雨はとてつもない災禍をもたらしました。

降雨、決壊、氾濫、崖崩れ、山崩れと、テレビの画面に映し出される光景は息をのみ呆然とするばかりのもので、思わず画面の前ににじり寄り立ち尽くし見つめる衝撃は、日を迫うにつれて大きくありました。

街路を覆う泥水の急流。 山の上から落ちてきて道をふさぐ仰天するほどの大きな岩石。 自動車がさかさまになって土砂に埋まっている。 あまりにも無残な家屋の倒壊。 瓦礫の中に家族を探して呼び求める切迫の音がする。 泥に埋まった小学校の校庭に上部だけを突き出している鉄棒。

死者は225人を数え、行方不明は11人、避難生活を余儀なくされるは3657人という一か月後の新聞報道でした。

途方もない力が途方もない大切なものを壊してしまう衝撃に、どうしようもなく打ちのめされるしかなかったのですが、やがてそこに立ち上がってくる復興への偉大な力をも目にして、私は我をとり戻す思いをしました。

灼熱の日照りのもと、土砂をバケツリレーで運び出しするボランティアの汗、瞳の光、懸命に尽くす人々の力のこもった美しい表情に、私自身が支えを受けるかの気持ちでした。 こみ上げる熱いよこびのなか、この光景を強く強く心に刻みつけるべく、私はテレビの画面に向き天使祝詞を唱えていました。

それにしても何という暑さ、気温の異常な高さだったでしょうか。

「命にかかわる危険な暑さです」「熱中症嚴重警戒です」「災害と捉えてください」 天気予報の文言とはとても思えない警報が続き、救急車の一か月の出勤回数は過去最多となったそうです。 実際に亡くなる人は毎日であり、小学校の校内で児童が熱中症で亡くなってしまうという痛ましさに、ほんとうに言葉ありません。 40度を超える気温はもはやトピックスとは言えない感があり、コンサート、パレード、催し物は軒並み中止とされ、建築現場では水浴び用のシャワーが設置されたとの話題に、尋常でないこの現実をひしひしと身に受け取りながらも、何をどう考えていいか心悩まし、炎暑の中にうずくまる思いです。

そして、この夏の過酷さを一層重ねた大きな出来事がありました。

オウム死刑囚の死刑が執行されたのです。 それも言葉にしたり文字にしたりするのがはばかられるほどの異様さで、一か月以内に13人の執行です。

私たちにとって重大な問題である死刑制度の是非を、また、日本国民の八割が死刑の制度のあることを望んでいる、或いは反対していないという世論調査の結果を、ここに議論しようとは思いませんが、この現実には私にとって思考よりは生理的な重圧であり、嘔吐を催すような耐え難さとして身体を襲うのです。

報道された死刑囚 13 人のプロフィール、その犯罪、その悔悛を読みながら、私の心は助けてくださいと声にならない声で叫びました。

私自身の老齡、老々介護という生活環境もあってか、この過酷の夏は何もかもが重く苦しく、すべて弱り果てて力尽きる思いになるのですが、あたりが静まる夜半、詩篇を歌いたくなる深い促しを覚えます。

目を閉じて想うのです。詩篇の人々の心がすぐそこにあること、驚くほど近いことを。

神よ あなたのいつくしみによって

わたしをあわれみ

あなたの豊かなあわれみによって

わたしのもろもろのとがを

ぬぐい去ってください

わたしの不義をことごとく洗い去り

わたしの罪からわたしを清めてください

神を呼び求めるしかなかった人々の心が私の心に重なります。

私たちは詩編の時代から、もっともっと前の時代から、救いの歴史の中を連綿と歩んできていることを、あらためて新しく知るので。

「人類は先に進んでいる」といわれます。それ以外ではないでしょう。

集中豪雨も異常気温も死刑制度もすべてがこの道のりでのことです。すべて救済の歴史の中の出来事です。そして明日は被爆 73 年となる「原爆の日」です。与えられた心を魂を力を尽くして歩みたいと、深い促しを覚えます。

——— 主イエズス きてください

(上野毛教会信徒)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

2018年8月8日

トマス・アルバレス神父を偲んで



去る7月27日の朝、十字架のトマス・アルバレス神父は、入院して二、三日後に帰天されました。彼は、1923年5月17日、スペインのアセبدو（レオン）で生まれました。1939年8月6日の初誓願以来、跣足カルメル修道会士であり、1946年6月23日に司祭に叙階されました。彼は、この数十年間における聖テレジア研究の偉大な専門家の一人でした。

彼は熱心に学び、教え、研究し、実り多い生涯を送りましたが、修道会と教会への最善の奉仕として、特に情熱をもって聖テレジアのカリスマと兄弟愛を生きました。その豊かな人柄は、修道会の境界を越え、教会や文化の広い地平に開かれていました。幅広く熱心な研究活動によって、彼の著作は、聖テレジア研究や現代文化の学者にとって必須の参考文献となりました。

彼の生涯は、多くの会議への参加と著作の主要な現代語への翻訳のおかげで、ヨーロッパ、アメリカ、特にイタリア、フランス、ドイツ、英国という広大な地理的領域にまたがり、それらの地で多くの時間が捧げられました。翻訳の中では、聖テレジアの作品のフランス語とイタリア語への批判版は際立っています。また、聖テレジア事典のごく最近の翻訳は、

跣足カルメル修道会HP (International)

デュ・セルフ社とOCD出版によって翻訳され、ブルゴスのモンテ・カルメロ社によって出版されました。

この大きな著作は、ローマ（1948～1978）で準備され、その後ブルゴス（1979～2018）で継続されました。アンジェリクムで研究していた時、カロール・ヴォイティワ神父（後の教皇ヨハネパウロ二世）と接触し、十字架の聖ヨハネに関するカロール神父の博士論文は、彼の尽力で、最初、ブルゴスの雑誌『モンテ・カルメロ』で出版されました。

しかし、彼の研究生生活は長年、ローマの教皇庁立カルメル会神学院（テレジアヌム）に集中しており、それが彼の深い学識の土台となりました。彼は、ここから聖テレジアが教会博士となるための準備文書を指導し（1970年に教皇パウロ6世により教会博士と宣言される）、次世代のために、第二バチカン公会議の光に照らされた聖テレジア研究の神学的解釈を完成させていきました。ローマのテレジアヌムでの彼の偉大な貢献の他には、聖テレジアの『完徳の道』と『靈魂の城』の写本の復元と批判版の出版があります。これに続きブルゴスでは、綿密な歴史的批判的手法による、聖テレジアのその他の作品のファクシミリ版が出版されました。

聖テレジアの生誕500年記念祭（2015）には、彼は聖テレジアの各作品の注釈書を発行し、聖女の手紙とエスコリアルに保存されている（一千頁以上の）自筆原稿の徹底的調査を遂行しました。

個人的に、私はいつもトマス神父に感服していました。2011年以来、テレジアヌムの図書館の司書として、学生や研究者達に、彼の歴大な仕事を紹介することを、光栄に思ってきました。私が、学問の分野——それは、母聖テレジアが絶えず讃えた素養であり、彼が細心の配慮と愛をもって生涯深めたものでしたが——における彼の深い学識に関する証人や代弁者のようになれたことは、幸いでした。彼は、病気になる二三日前に、謙遜かつ賢明に、私にこう答えました。「すべては、主の働きであり、イエスのテレジアへの大きな愛の働きです。」

(P. シロ・ガルシア ocd)



カルメル誌 新刊案内



2018年 特集号

「ともに暮らす家を大切に」
—『ラウダート・シ』を生きる—

「エコロジカルな回心」と「総合的なエコロジー」
吉川まみ

長く見落とされてきた
「身近で些細な存在をいとおしむ」スポット・ライト
大瀬高司

人知れず紡がれていく世界の中で
—『ラウダート・シ』の靈性
中川博道

諸宗教対話の立場からひと言
フランコ・ソットコロラ

自然とカルメルの靈性
—十字架の聖ヨハネを中心にして
九里 彰

2018年 夏号 No.369

《靈的生活への招き》

秘跡に養われるキリスト教生活(1) 今泉 健
信仰生活(再)入門

テレーズと共に歩む 幼子の道(2)—神は「父」?
片山はるひ

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(2)
九里 彰

エディット・シュタイン研究の思い出 須沢かおり
人の生き様と結びついた祈り
—キリストのゲッセマニの園での祈りから
森 一弘

風に吹かれて(16)—観想から得た存在と意味
原 造

キリストに伴われて季節を巡る(2) 伊従信子
祈りを教えてください(2)

—マタイ福音書による隠れた祈り 田畑邦治
聖エリザベトと私たちの日常生活における

御聖体の重要性 ポーリン・フェルナンデス
靈性研究会議義録(1)—靈性について

奥村一朗

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記
へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費 (年5冊:春夏秋冬
+特集号 計 3,500円) を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

最新刊のご案内

修道院の風

宇治カルメル会 修士 原 造・著

競争社会の真ただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。

この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはななかった、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々、折りにふれて綴った随想の風。

著者★原 造（はら つくる）

1946年 群馬県桐生市生まれ。

1991年 男子靴足カルメル修道会入会。

1997年 荘厳誓願宣立。

現在に至る。

5月10日発行

女子パウロ会
新刊案内



B6判・128頁・定価 本体 1,100円＋税
ISBN978-4-7896-0794-0 C0016 NDC194

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 福音書(1)
 - 第2章 福音書(2)
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
 - 第10章 英知と(空)
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 (愛のうちにある)
 - 第15章 花嫁と花知
 - 第16章 一 致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

使徒言行録を読む

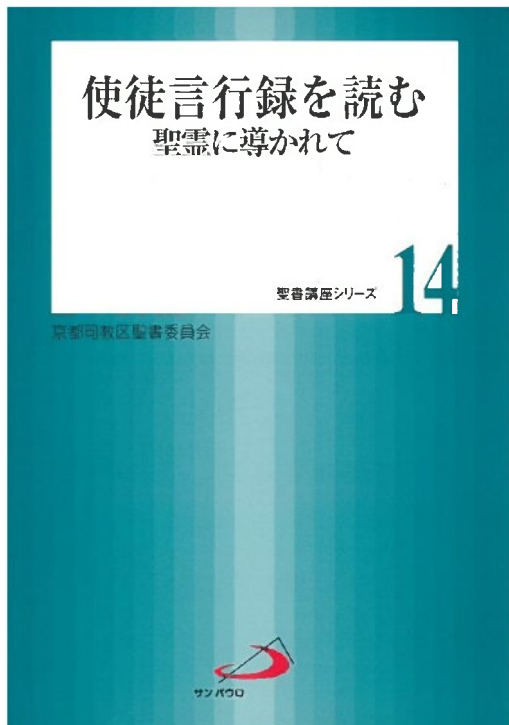
聖霊に導かれて



14

企画・編集 京都司教区聖書委員会

使徒言行録はルカ福音書の後編として書かれ、初代教会においてどのように福音が宣教されていったかをわたしたちに伝えています。エルサレムでの初代教会、ペトロの宣教、そしてパウロの宣教と受難について述べていくことを通して、使徒言行録の本当の主人公が聖霊であることが明らかにされていきます。カトリック教会で使徒言行録についての解説がほとんどない中、使徒言行録を読んでいくための必修の講話集。



村上 透磨	はじめに
中川 博道	ペトロの宣教
一場 修	聖霊の働き
西 経一	パウロと律法
北村 善朗	パウロの宣教
鈴木 信一	パウロの受難
澤田 豊成	パウロからわたしたちへ

定価 本体 **1,400** 円 + 税

B6 判並製・232 頁・ISBN978-4-8056-3909-2

お求めは聖書委員会またはキリスト教書店で

京都司教区聖書委員会

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル カトリック会館7階

TEL: 075-211-3484 FAX: 075-211-3910

E-mail: seisho@kyoto.catholic.jp

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛 霊性センター(東京) (2018年9月～2019年3月)

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2018年 12月24日(月)～25日(火)朝食≪講話なし、夕食なし≫

聖書深読黙想会 大瀬高司 神父

2018年 9月29日(土)夕食～30日(日)午後4時

12月 1日(土)夕食～ 2日(日)午後4時

日帰り黙想会 13時30分～16時 福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2018年 10月26日(金) 11月8日(木) 11月30日(金)

12月13日(木)

2019年 1月11日(金) 1月24日(木) 2月 7日(木)

2月22日(金) 3月 7日(木) 3月22日(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉獻生活者のための黙想会 福田正範 神父

2018年

12月27日(木)17時～ 1月 5日(土)朝

奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2018年

10月10日(水)17時～10月19日(金)朝 福田正範 神父

青年黙想会(男女) 35歳位まで

2019年

2月16日(土)16時～17日(日)16時 カルメル会士

召命黙想会(男女) 40歳位まで

2018年

11月23日(金)16時～25日(日)16時 カルメル会士

特別黙想会 Sr. 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)

2018年

11月16日(金)20時～18日(日)16時



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

カルメル修道会 一日静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2018年 9月15日 (土) 13時から 17時

テ ー マ : 「 悲しみの聖母 」

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。(聖堂には12時からお入りいただけます。)
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。

(尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問 い 合 せ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17

FAX 052-681-6445

E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

10月27日 (土)

11月24日 (土)

12月8日 (土)

何れも原則13時から17時まで。ホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

【注意】 11月の日程が変更となりました。気をつけてお越し下さい。

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・ウイリー神父・古川神父)

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

宇治カルメル会 2018年度 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

9月8日(土)～9日(日) 「人は新たに生まれなければ、
神の国を見ることはできない」(ヨハネ3・3) 九里彰神父
11月23日(金)～25日(日) ※2泊3日「目覚めていなさい」 中川博道神父

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)

9月1日(土) 中川博道神父 ~~変更 11月17日(土)~~ 中川博道神父
→12月1日(土)

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)

9月26日(水) 私を生まれ変わらせるユウカリステア Sr.ロサ
10月24日(水) 「ピンチの時は注意深く」 中川博道神父
11月21日(水) 「永遠の命」 九里彰神父
12月19日(水) 私たちの内に宿りたいインマヌエル Sr.ロサ

【聖テレーズの黙想】(午後5時～午後4時)

9月29日(土)～30日(日) 中川博道神父

【カルメル青年の集い】(午前10時～午後4時) 中川博道神父

11月23日(金)

【青年の黙想会】(午後5時～午後4時)

9月15日(土)～16日(日) 中川博道神父

【一般のためのカルメル霊性】(午後5時～午後4時)

10月13日(土)～14日(日) イエスの聖テレジア 中川博道神父
12月8日(土)～9日(日) 十字架の聖ヨハネにおける愛の変容 九里彰神父

【生活の中での霊的同伴】(金曜午後 8時〈夕食なし〉～土曜午後4時)

9月14日～15日 11月2日～3日 九里彰神父

【待降節の黙想】(午後5時～午後4時)

12月1日(土)～2日(日) 「人となられた神」 九里彰神父

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

11月6日(火)～15日(木) 九里彰神父

12月27日(木)～1月5日(土) 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30(講話なし、各食事つき)

【クリスマス】

12月24日(日)～12月25日(月)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会,個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願いたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子洗足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子洗足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel: 052-671-1558 Fax: 052-681-6445

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会
詩編の会
マリアポリ（フォコラーレ）

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



カルメル霊性センターニュース

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

2018年以降の予定

今後の内観は、希望者の日程や会場・修道院の都合を調整して行います。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターにお問い合わせください。

電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

(新住所)

◎〒662-0003 兵庫県西宮市鷺林寺町3-46 シトー会

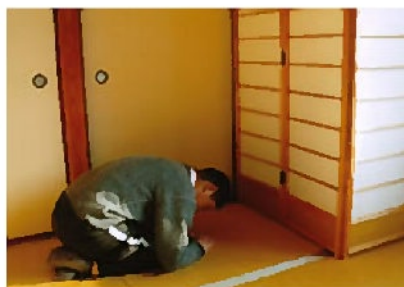
西宮の聖母修道院 司祭館

「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父

FAX 0798-71-5234 Eメール fujinao1944@nifty.com

<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。



真命山 2018年 — 祈りの集いのご案内

毎月第2木曜日 (10:00～15:00)

指導者 フランコ神父

*は聖ザベリオ宣教会ダニーロ・マルケット神父

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月11日 五旬節続唱「聖霊、来たり給へ」
- 2月 8日 聖ボナベンツラの祈り
- 3月 8日 聖アンセルモの祈り
- 4月12日 聖フランシスコ・ザビエルの祈り*
- 5月10日 「サルベ・レジナ」
- 6月14日 聖心の連願
- 7月12日 ロヨラの聖イグナチオの祈り*
- 8月 休み
- 9月13日 幼いイエズスの聖テレジアの祈り*
- 10月11日 アッシジの聖フランシスコ作とされている「祈り」
- 11月 8日 シャールズ・デ・フーコーの祈り*
- 12月13日 「テ・デウム」

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com



講話と祈りの集い

2018年9月29日（土）

テレーズの使命



わたしは死ぬのではありません、
命に入ります テレーズ

午後2時～午後5時30分

担当 伊従 信子

講話・祈り・質問・分かち合い

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円



ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/> ★申込み受付・・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
I&アド バンス	9/21(金)17:30- 24(月)14:00	Fr植栗	浜松三ヶ日研修セ ンター (浜松市北区)	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana@7123@yahoo.co jp
入門A	9/30(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	同上
宝塚 リピータ ーの会	10/5(金)17:30- 8(月)16:00	Fr植栗	女子御受難修道院 (宝塚市)	上田正美 TEL 090-5651-6495
サダナ I	10/18(木)17:30- 21(日)16:00	Fr植栗	西日本霊性センタ ー (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク TEL082-239-0034
入門B	10/28(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	来間由美子※

※不在の場合は、渡辺由子

Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel : 077-579-7580

Fax : 077-579-3804

Eメール : karainorind92@mbe.nifty.com

ホームページ : <http://www.ssnd.jp/>

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2018年 5月 6日(日)～5月14日(月)
- ② 8月14日(火)～8月22日(水)
- ③ 10月7日(日)～10月15日(月)
- ④ 12月27日(木)～2019年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2018年 2月 2日(金)～2月4日(日)
- ② 2月23日(金)～2月25日(日)
- ③ 3月16日(金)～3月18日(日)
- ④ 6月22日(金)～6月24日(日)
- ⑤ 7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥ 9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦ 11月16日(金)～11月18日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

2018年 5月30日(水)～6月7日(木) 雨宮 慧 師（東京教区）

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方は
ご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除き
ます。）

2018年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月26日(土)～27日(日)	マルコによる受難	山内十束師(ご受難会)
2	7月7日(土)～8日(日)	マタイによる受難	山内十束師(ご受難会)
3	2019年 2月16日(土)～17日(日)	ルカによる受難	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

ルカによる受難

2019年度 第3回 女子青年黙想会

日時： 2月16日(土) 15:00～

17日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

【入門講座】

毎週金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを取り扱います。無料

- 9/ 7 イエスの復活—今に生きるイエス
9/14 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス
9/21 聖霊—神の愛に導かれる
9/28 祈りの本質とさまざまな祈り方
—神と関わる
10/ 5 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
10/12 教会の成立と意味
—イエスを中心に集う
10/19 人間としてのイエス
—新しい人間像の基礎付け
10/26 御子としてのイエス
—イエスの神との関係

【理解講座】

第1・3火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。無料
2年間のコース。途中参加・部分参加も可

[イエス]

- 9/ 4 史的イエス—活動と生き方の特徴
9/18 神の国—イエスの使信
10/ 2 根本たる愛—律法の完成と克服
10/16 受難による救い—イエスの救済的役割

【土曜アカデミー】

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリス
ト教哲学・神学の相互関係を考察します。無料
キリスト教思想史に関心を持っている方。
プログラムの詳細は、別途配布。

参考書:K.リーゼンフーバー著『西洋古代・中世
哲学史』『中世思想史』平凡社ライブラリー
2018年度のテーマ:

近代と現代におけるキリスト教と理性

- 9/ 1 ライプニッツ:单子論と共同体(18世紀)
9/ 8 カント:意識における倫理の基礎づけ(18世紀)
9/29 フィヒテ:意識と幸福の諸段階(19世紀)
10/20 キルケゴール:不安と信仰(19世紀)
10/27 フッサール:認識と学問としての哲学
(20世紀)

【神学読書会】

第2・第4木曜日:18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と
神学に関する文章を読んで、話し合います。
テキスト:第Ⅲ巻「信仰と幸い—キリスト教の本質」
随時、どなたでもご自由にご参加ください。
※祝日、8月全体、12/27は休み。

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂
信仰・宗派を問わず、どなたでも。
随時の参加・遅刻も可。お気軽に。無料
※祝日。8月全体は休み。

【祈りの集い】

下記の土曜日 13時30分～16時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室
講話、黙想、ミサがあります

9/15、10/6、11/10、12/1

【ロザリオの祈り】

上記同日のミサに続いて 16時10分～16時50分
クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂

【夕方のミサ】

下記の月曜日 18時～19時

上智大学内S.J.ハウス隣クルトゥルハイム1階右
テレジア小聖堂

9/10、10/29、11/26、12/10

【坐禅会】

第1、第3月曜日：18時～20時

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋
2回坐り、間に講話。遅刻・不定期の参加も可。

※祝日、8月全体は休み

【黙想会】

上石神井 1泊7000円

10/13(土)10時～10/14(日)14時

申込みの締切りは、初日の10日前

(予定) 関西：9/22(土)13時～9/23(日)15時

宝塚黙想の家 Tel.0797-84-7863 Sr.田中

【クリスマス会】

12/8(土)10時～13時

聖イグナチオ教会岐部ホール4階404

【クリスマスのミサ】

12/23(祝)14時～

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

【クリスマスの黙想】

12/25(火)18時50分～20時10分

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

—上記の日程に変更がある場合は、
信徒会館1F掲示板でお知らせします。—

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

(上智大学名誉教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/



祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14：00～16：00

【2018年予定】

~~1月18日 第13の歌 終了~~
~~3月22日 第14及び15の歌（1～14） 終了~~
~~5月24日 第14及び15の歌（15～30） 終了~~
~~7月26日 第16の歌 終了~~
9月27日 第17の歌
11月22日 第18の歌と第19の歌
12月20日 第20及び21の歌（1～19）

【2019年予定】

1月24日 第22の歌
3月21日 第23の歌と第24の歌


*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



午後の静修<講話・念祷・ミサ>へのおさそい

《 神の母の誕生 》

— マリアとわたしたち —

日 時：2018年9月8日(土)
12時～16時(受付11時)

指 導：中川博道神父 (カルメル修道会)

対 象：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会

をご記入の上、

FAX 又はメールにて (返信します)

定員になり次第〆切(6月1日から受付開始です)

FAX:045-402-5131

e-mail:shihennokai@gmail.com

場 所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉1-5

JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車

サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折

→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m直進

四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131 (藤井)

e-mail: shihennokai@gmail.com

申込書

代表者氏名 _____
 代表者住所 _____
 連絡先 血 _____
 E-Mail _____
 ご紹介者 _____

名前	性別	年齢	籍地	食事
	男	9日		夕
	・女	10日		朝昼夕
		11日		朝昼
	男	9日		夕
	・女	10日		朝昼夕
		11日		朝昼
	男	9日		夕
	・女	10日		朝昼夕
		11日		朝昼
	男	9日		夕
	・女	10日		朝昼夕
		11日		朝昼

★性別・宿泊・食事欄は必要な箇所には○印をつけてください。

振込金額

参加費	人分	円
他の方への支援献金・会場費等のため		円
振込額		円

申込書は取り敢えずにFAX かメールでお申し込みください。

参加費

◆宿泊される方

- 1泊2日 (夕食1・宿泊1・朝食1)
 大人 7,000円
 中・高校生 6,000円
 小学生 5,000円
 未就学児 1,500円

2泊3日 (夕食2・宿泊2・朝食2)

- 大人 14,000円
 中・高校生 12,000円
 小学生 10,000円
 未就学児 3,000円

◆宿泊されない方

- 大人のみ 1,000円

※昼食、夕食をご希望の方は予め申込みが必要です。

夕食

- 大人 1,080円
 小学生 864円
 幼児 540円

参加費に昼食代は含まれていません。昼食は個々に施設内のレストランを利用していただきます。(衛生上持参はできません) 定食や丼ものなど、多彩なメニュー (550円~800円程度) から好きなものを選んでお召し上がりください。

★レストラン利用者数を把握しておくため、申込書の食事欄には記入を忘れずにお願いたします。

申込締切

2018年9月30日 (日)

振込口座

三菱東京UFJ銀行 西荻窪駅前支店
 (普通) 0951732 フォコラーレ会 代表者 黒川眞理子
 ※参加費についてのお問い合わせは、フォコラーレまで、……

＜キャンセル料＞

不泊100%、当日100%、前日80%、9日前20%、20日前10%
 食事：当日80%、前日20%



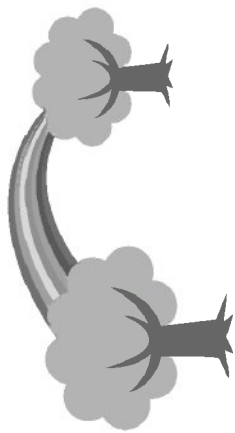
ようこそ マリアの町へ

2018

マリアポリ in 埼玉

～ともに歩もう～

ひとりではなく、つながりのなかで



2018年11月9日 (金) ～11日 (日)

主催：フォコラーレ

お申し込み・お問い合わせ先

フォコラーレ

〒166-0001

東京都杉並区阿佐谷北2-31-12

Tel :03-3330-5619 Fax: 03-5356-6101

E-mail tokyofocfem@gmail.com

プログラム

11月9日(金)

- 15:00~ 受付【大会議室】
- 16:00~17:00 出会いのひととき
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~20:30 ようこそマリアポリへ【大会議室】

11月10日(土)

- 6:00~ 散歩(自由参加)
 - 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
 - 9:30~10:40 プログラム①【大会議室】
- 朝のつどい
- ※子どもたちの別プログラムがあります
 - 11:00~12:00 祈りの時間(ミサ)
 - 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
 - 14:00~17:00 プログラム②【大会議室】
 - 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
 - 19:30~20:30 プログラム③【大会議室】
- 夜のつどい

11月11日(日)

- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
 - 9:00~10:30 プログラム④【大会議室】
- 朝のつどい
- 11:00~12:00 祈りの時間(ミサ)【大会議室】
 - 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
 - 14:00~16:00 プログラム⑤【大会議室】

※ 大会議室は研修棟にございます。お荷物は宿泊棟の玄関のコインロッカーをご利用いただけます。

※ プログラムは事情により変更することがあります。

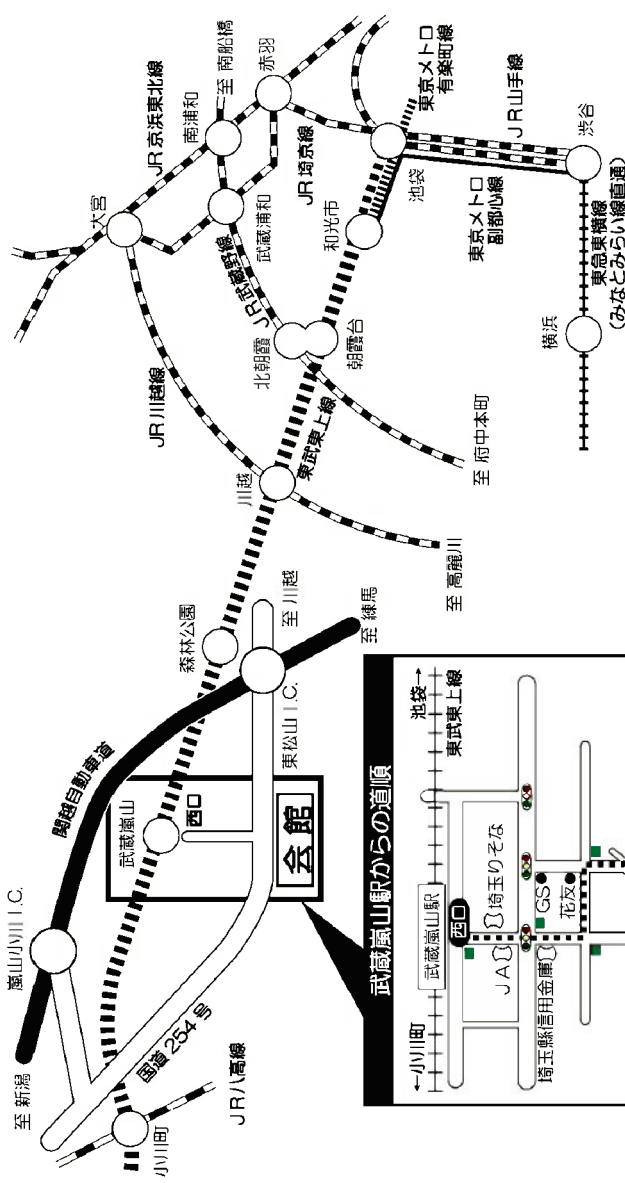


ばしよ：国立女性教育会館

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

Tel. 0493-62-6711

<https://www.nwec-bs.jp/>

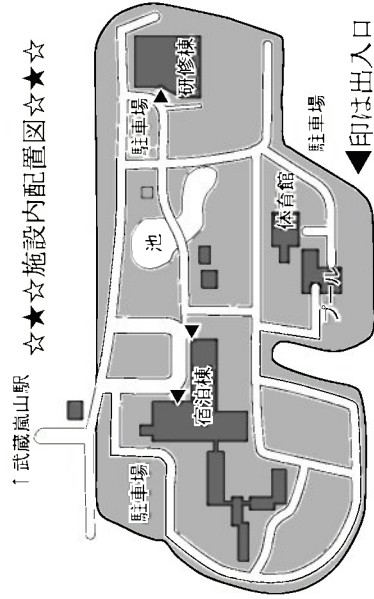


交通案内

- **池袋駅から** 東武東上線 武蔵嵐山駅まで 急行で約65分 駅からは徒歩で約15分です。
- **川越駅から** 東武東上線 武蔵嵐山駅まで 急行で約31分です。
- ★ 羽田空港から川越駅まではリムジンバスで約100分です。
- **横浜駅から** 東急東横線～東武東上線 直通のドライナーに乗り途中森林公園駅でのりかえて武蔵嵐山駅まで約2時間です。
- **お車で** 関越自動車道を東松山 IC 降りて 国道254号線を通って約15分です。

※ 到着しましたら、プログラム場所へ直接お越しください。

☆☆施設内配置図☆☆



四季の移ろいを楽しめる緑豊かな場所です。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

ご存じのように、7月16日、大阪大司教区では、二人の補佐司教の叙階式があった。ホセ・マリア・アベイヤ司教（クラレチアン会）とパウロ酒井俊弘司教（オプス・デイ）の誕生である。伝え聞いた酒井新司教の叙階式での話は、なかなか面白いので、ご紹介する。

まずお母さんに補佐司教に選出されたことを話したところ、お母さん、「あんたで大丈夫なん？」。お兄さんに電話で「大事な話なんだけど、会える？ まあ、いい話なんやけど」と言って再会したところ、お兄さん曰く、「なんやいい話って。結婚か？」。お姉さんに至っては、「新聞に補佐司教選出、酒井俊弘58歳と出たから、私の歳がばれてしまった」。三者三様の反応で、ほのぼのとしたご家庭の雰囲気伝わってくる。

前田枢機卿のもと、大阪、兵庫、和歌山に居住する約5万人の信徒を、枢機卿を支えながら、アベイヤ司教と共に賢明に導かれるよう、二人の新司教の上に、聖霊が豊かに降るよう祈りたい。
(P. 九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

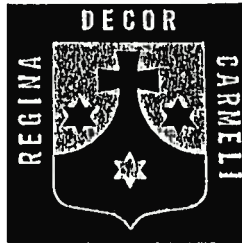
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **9月28日(金) 午後10時半頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456